

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ふつうの暮らし」を送れる生活環境の提供を目標とし、開かれた環境づくりの中で共に支えあえる場となる事を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示すると共に、カンファレンスや会議の際、理念に視点を置いた支援が出来る様周知徹底を目指している。日々のサービスの中での声掛けや表情・穏やかに接する事などに注意するよう取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	館内の受付前の掲示板に掲示し、GH関係者以外の方にもご理解頂ける様取り組んでいる。法人全体の行事(夏祭り・体育祭等)や家族談話会などに参加して頂いた際、交流を深めると共により理解して頂けるよう、広報に取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣より畑で採れた季節の野菜など頂いたり、散歩時雑談などを楽しむ時間を大切にしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の各種行事や、地域の方々とのゲートボール大会を通して幅広い年齢層との交流の機会を設けている。また、施設内に「地域交流スペース」があり、気軽に地域住民が使える場としている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々によるボランティア会の活動を受け入れている。(朗読・昭和琴・紙芝居など)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	活動日誌の改善や規定・契約書などの見直し、また計画書の家族の同意の徹底などに取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催。事業所からの提案や評価への取り組み報告を行い、行政・民生委員・法人の評議委員・利用者のご家族より質問、意見、要望を頂くと共に、運営についても相談している。他のGHの情報や地域での福祉の在り方などを参考にサービス(活動)に取り入れている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	統括施設長が小竹町高齢者対策の副会長を務めていることもあり、役場の保健福祉課担当者と共に、よりよい福祉・支援に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用事例はないが、職員への基本的な学習は行っている。	○	勉強会を開き、制度についてより理解を深め、活用に繋がるよう努力したいと考えている。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルによる周知徹底を行い、正しい認識とケアの実践を心掛けている。また、規定書にも虐待等の禁止、身体拘束の禁止を記載している。	○	緊急やむを得ず拘束する場合の手続きの方法や、記録の書き方についての勉強会を開き、職員の意識向上を目指す事はもちろん、ご家族との談話会などを通して高齢者虐待防止関連法の理解を図っていききたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「できること」「できないこと」を明確に契約書にも記載し、十分な説明を行っている。質問の受付はもちろん、ご家族が何を不安と考えているのかを考慮しながら、理解・納得を図っている。解約時にも各関係機関と連携を図り退居の支援を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度介護相談員が来訪し、利用者の相 談に応じている。またご本人の不満や好ま れる言動から、真の意向をくみ取り、より 良い支援となるよう努力している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	金銭出納帳の確認を毎月行っており、その 際に利用者の様子を伝えている。その他の 来訪時にも積極的に会話するように努め たり、ケアプランの確認をして頂いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口・ 外部の苦情申立機関の連絡先を記載し、説 明を行っている。また、「談話会」を定期 的に開き、その際意見や要望が出しやすい 様、GH関係者が参加しないかたちをとっ ている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	全体職員会議や敬寿会議の場に於いて、職 員の意見・要望を聞く機会を設けている。	○	職員の意見を参考に、来年度より勤務時間 の変更を予定している。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	無理なく利用者の生活時間に合わせた体制 が取れるよう人員確保している。 夜勤者も日中勤務により利用者との関係が 出来ている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的に職員との面談を行い、異動や離職 を最小限に抑えるよう努力しているが、必 要時には利用者への負担を考慮し、引き継 ぎの期間を十分にとる等配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって、差別や偏見の無いよう取り組んでいる。採用後も本人の希望や目標を支援している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の基本的人権の尊厳についてマニュアルを作成し、会議や研修時に啓発している。	○	高齢者の人権問題だけでなく、様々な差別について勉強会を開いていきたいと考えている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議・カンファレンスの参加を促し、参加できない職員の意見も書面にて事前に預かり、出来る限り全職員で取り組み育成している。外部研修の報告会をその会議の場で行っており、研修報告書・資料を常に閲覧出来るようにしている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、病院のソーシャルワーカーや福祉施設等の相談員との情報交換等の連絡体制がある。	○	定期勉強会等の検討を考えている。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	懇親会などの職員間の交流によりストレスの軽減を図っている。休憩中は出来るだけ利用者と離れ、気持ちを切り替えられるよう取り組んでいる。	○	休憩中の場所の確保を検討したい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全ての職員が問題意識の維持・向上の為、各委員会に参加し、職員自らが様々な課題に対して成果物を作成出来るよう働き掛けている。	○	自己評価表を定期的に記入、提出してもらう事により、向上心の維持や規律・心構えの確認、目標の明確化を図りたいと考えている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限りご本人の言葉を引き出せるよう努力し、不安やおかれている状況を理解する事でご本人を知り、理解するよう心掛けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の立場で話を聞き、ご本人との思いの違いや、これまでの経過を把握出来るよう努力している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分にアセスメントを行い、即時的なニーズへの対応が的確に行える様努力している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の混乱を防ぐため、少しずつ時間を延ばしながらの試し期間を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長い人生経験の利用者の方に学ぶことは多く、お互いに「ありがとう」と言い合い、全ての思いに共感できる関係である努力をしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、「あずかってもらっている」という家族の負い目を理解し、出来る限り共に支え合っているという関係を保っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各行事にご家族をお誘いしている。また、訪問時に職員が家族の役割を邪魔する事のないよう配慮している。離れて生活する事により、お互いにより良い関係が築けている様子。	○	誕生会に、ご家族の参加を計画している。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、家族との外出や外泊などにより関係継続できている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮しながら、出来る限り利用者同士が協力し合えるよう、側面的な見守りに徹底している。このことにより、弱者への思いやりが見られるようになった。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、訪問されるご家族もおられ、関係の継続に努めている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉はもちろんの事、行動や表情を常にご本人の意向であると受け止め、理解するよう努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時にアセスメントを行い、生活歴や職歴・趣味を生かした支援となるよう心掛けている。ご家族が利用者の生活歴を把握していない場合は、時間を掛けご本人とのコミュニケーションの中で情報収集する様にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中での観察や記録により、総合的に把握出来るようにしている。カンファレンス時に全職員に現状の確認と真に必要な支援の検討を周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリング時の他に必要時には、併設施設の相談員なども参加頂き、カンファレンスを行うことにより、課題を明確かつ共有化し、ご本人にとってより良い支援となる計画作成に努めている。医師の助言を必要とする事もある。ご家族が参加出来ない場合は、要望を事前に聞き計画書に記載している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院時や体調の変化、または計画の変更の必要性のある場合は本人・ご家族との話し合い後新たな計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に具体的な記録を行い、情報の共有化を図るため、申し送りノートに全職員の捺印にて確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時に於いて、ご家族や医療機関との連携により、早期退院への取り組みに努め、その後の医療を受けながらの生活も出来る限り支援を行っている。また、重度化した場合も出来るだけご本人やご家族の意向によりホームでの生活継続を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防法に基づいて、消火・通報・避難訓練を年に2回実施している。また、サークル活動における地域ボランティアの受け入れ。保育園児・小学生の訪問、中学生の職場体験の受け入れを支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	情報提供は行っているが、活用事例は現在ありません。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内の居宅介護支援が地域包括センターとの連携を図っている。	○	必要に応じ地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげていきたいと考えています。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による医療を受けられるよう支援を行い、内科・整形外科・心療内科・歯科など協力医療機関の確保に努め、ご家族の受診時の通院介助の軽減を図ると共に、情報の伝達方法を話し合うようにしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医への受診予約を代行し、情報提供を行うと共に、必要時にはアドバイスを頂いている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護職員に、必要時相談を行い、健康管理や対応を助言頂いている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院に備え常時連携をとりながら、情報交換に努めている。入院中の混乱防止はもちろん、退院後の注意点についても相談している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人・家族の意向を大切に生活の維持を図っているが、症状の悪化により入院治療が必要になった場合を、家族や医師との話し合いで準備している。	○	訪問時の情報交換に留まるのではなく、記録として残して行くように努めたいと考えている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応出来る事、出来ない事、職員の不安なことを家族と話し合い、医療機関との連携により利用者の負担がなく、過ごしやすい方法を検討している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際には、プライバシーに配慮しこれまでの生活が継続して行われる様、移行先への情報伝達や家族との話し合いを十分行うようにしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の方にとって最大の苦しみは自己の喪失であることを理解し、「その人らしいあり方」を大切にする支援を心掛けている。よって、利用者の尊厳と権利を守る事を無視した言動や記録の取り扱いはしていない。また、個人情報保護法の条例を全ての職員が閲覧出来るように配慮しそれに係わる書類は(保険証・記録等)鍵の掛かる場所に保管している。	○	プライバシーの確保に関しての勉強会を開き具体的に認識し、話し合う場を設けていく予定である。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	判断力や表現する力の低下が見られても、出来る限りご本人の言葉により思いを伝える事が出来るような声掛けを心掛けている。その事によって介護者と利用者との間に誤解が生じることもなく、気持ちの高ぶりなどの症状も和らいできている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いに沿いながら納得できる支援のあり方に難しさを感じながらも努力している。できる限りその人らしく、馴染みの生活の継続を支えていける様に(入浴・散歩・サークル活動など)気を付けている。	○	センター方式のアセスメントを取り入れ、利用者本位の継続的な支援を目指し、取り組んでいる。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれを楽しむ事が出来るよう環境を整 えています。(化粧・マニキュアなど) 一方的な支援でなく本人の好みや持っている 力に応じた支援となる様心掛けている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活か しながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者を中心にそれぞれが出来 る事、得意な事を行って頂いている。車椅 子の方ももやしの根切り等に参加されてい る。職員と共に食材を買いに行く事もある。 職員と一緒に行う調理・盛り付け・食 事・片付けは日課というより、楽しみやや りがいのひとつとなっている様子。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一 人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿・高血圧等の疾病のある方、特に医師 より指示のある方には、塩分や甘い物を控 える等考慮しているが、基本的にはご本人 の嗜好を取り入れている。飲物もコーヒー を好まれる方もおられ、楽しみな時間と なっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援してい る	排泄の自立を目標に出来る限りトイレでの 排泄を促す為、排泄パターンに合わせたト イレ誘導を行っている。(排泄チェック表 の記入)		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援してい る	曜日、時間に関係なく体調を確認しなが らご本人の希望に合わせて行っている。ゲ ートボールの後にシャワー浴をされる方、 就寝前に入浴を希望される方もおられる。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は一日の生活リズムづくりの 為、日中の活動を意識した支援を行う等の 工夫をしたり、環境整備の見直しを行っ ています。また、協力医である心療内科の 医師に相談し、指示を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゲートボール・華道・カラオケなどの趣味を楽しまれたり、食事・おやつ作り、朝の清掃や夕方の洗濯物たたみなど意欲的に行われ、それぞれの役割を張り合いとしている様子。このことにより、生活習慣の維持や精神面の安定が図られている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングの際、希望に応じてご自分で支払って頂き、混乱されることの無いよう側面的見守りを行ったり、必要時のみ助言している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の方も一緒に地域の住民宅に梅見に出掛けたり、不穏状態にある時はドライブに出掛ける事もある。外食も楽しみのひとつとなっている。戸外散歩は日常的に支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と墓参りや外食に出掛けられる事も多い。日常の中でご本人が気にされている事や希望されている事をご家族に伝え、願いが叶えられるよう働きかけている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけるお手伝いをしたり、手紙の代読を行っている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会者は頻繁にあり、ホールや居室で利用者とお茶をされたり、ゲームに参加されるなど、楽しく過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく認識する為、全職員に周知徹底や、身体拘束をしない支援の実践ができています。	○	勉強会を定期的に行い、常に意識した支援が行える様、取り組んでいきたいと考えています。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間の玄関のみとし、日中は自由に行動されている。ホーム外に出て行かれても、危険の無いようさりげなく同行するようにしている。その方の外出の習慣(時間や表情から)を把握出来ているが、もしもの場合にも併設施設の職員との連携により、安全を保持している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール全体の様子を伺いながら、さりげなく見守り安全の確認を行っている。夜間も睡眠を妨げる事の無いよう注意しながら巡視を行っている。常に利用者のサインを見落とさないよう注意を払っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員での話し合いの結果、包丁は夜間のみ鍵付きの場所にて保管を行い、洗剤などは決められた場所に置くようにしている。薬は昼夜鍵の付いた場所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルによる知識の周知や、カンファレンス時に個別の注意点の確認を行い処遇を検討するなどの取り組みがある。また、ヒアリハットの報告を促すことで、事故に繋がりそうな危険因子に速やかに対応が行えるよう努めている。	○	早い時点の気付きが増える事により、事故防止に活かされるよう、もっと多くのヒアリハットが提出されるよう、具体的な検討が必要と考えている。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルやフロムチャートにより、対応を明確にしているが、訓練は行っていない。法人内での安全対策委員会発足により意識は高まっている。(敬寿職員2名委員参加)	○	定期的な訓練の実施に取り組むと考えている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力による避難訓練を行い、地域の方の協力を呼びかけている。誘導方法や弱者避難介助の担当を決め、安全に対応できるように努めている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族などから安全の為の拘束依頼や疾病があるにもかかわらずおやつの要望などがあつた場合には、事業所の取り組みや、利用者が受ける身体的・精神的リスクについて説明し、納得頂ける対応策の提供に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	それぞれの服薬状況や、顔色や動作の変化などによる兆候を見落とさないように注意している。また、気付いた時には連携の看護職員や協力医に連絡を取り、対応の遅れが無いよう心掛けている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に分かり易い様、個人別薬剤内容表を作成し、服用方法なども分かるようにし、飲み忘れなどの無いよう対応している。受診の際にも経過報告を行い、情報提供すると共に、ご家族への報告を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫したり、水分や運動による対応を心掛けている。排泄チェックパターン表を記入し、自然排便を促すようにしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行うよう支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が一括してカロリー計算をしている。利用者の状態や習慣に合わせた食事・水分補給の摂取量を確保している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルによる周知徹底と地域の感染症発生状況の情報収集に努め、玄関に注意書きを掲示し、消毒の設置などで対応している。また、インフルエンザに於いては予防接種を施設内で実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い・器具の洗浄・原材料の保管管理、加熱調理のマニュアルをもとに清潔保持に努めている。消毒液の使用はもちろん、冷蔵庫の整理日(日曜)を決め、食材の管理と無駄の無い工夫を行っている。	○	食材の在庫表を作成する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には利用者と共に造った花壇があり、季節の花を植えたり野菜作りを行い、親しみやすい環境作りを目指している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り生活感が持てる様和室の使い方や調度品を工夫している。季節感採り入れるための植物を飾ったり、イベント毎の飾り付けなど配慮している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置を工夫して、数人で会話出来る場所と、一人になれる場所づくりをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に植物や写真などを飾られている方が多く、馴染みの物に囲まれ落ち着いた環境となっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールに温度計を設置しており、職員が常に確認している。換気もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はハートビル法の適用を受けている。要所に手摺りの設置や浴槽の滑り止めをするなど、身体機能の低下を補う為の配慮をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で考え行動する場面において、側面的な見守りを行う上で、必要の無いもの、紛らわしい物を置かないようにして、生活動線の安全の確保と混乱防止に努めている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	静かな木立に囲まれたホームの周囲を職員と一緒に散歩したり、ベランダからゲートボールの様子を眺めたりされている。また、外玄関前の花や野菜の手入れ、洗濯物干しなどを楽しみとされている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

認知症の方を理解し、その人らしく「普通の暮らし」が継続していけるよう支援を行っている。その為にも職員と家族だけでなく、地域の方々と共に協力し合える支援に取り組んでいます。地域交流スペースの活用、地域の方とのゲートボール大会、また法人（他の施設との連携により）で行う夏祭りや体育祭でのボランティアの方々や近隣の方との交流、このような活動が利用者の方にとって開放的で、存在感を感じられる生活の基となっていると思われま。